

在宅死後の家族の悲嘆反応に影響する因子 看護師の傾聴的態度と悲嘆反応の関係について

矢田チエ子（訪問看護ステーションさぎそう管理者）

松村真司（東京大学医学教育国際協力研究センター） 園部京子（中町居宅支援事業所） 青田礼子、今井めぐみ、深沢光子、中村美代子、片岸美佳、佐々木則子、赤羽根美和子、石川多恵子（訪問看護ステーションさぎそう看護師）

背景・目的

終末期を在宅で迎える場合、医療従事者の対応が在宅死を可能にするかどうかの要因の一つであると言われている。今回在宅で終末期を過ごした家族の死別後の悲嘆反応に焦点を合わせた。今まで悲嘆の段階に対し、生前の看護師の傾聴的態度がどのように影響しているかを検討した報告はない。今回の研究の目的は、在宅死後の家族の悲嘆反応に関係する因子の中で、訪問看護師の生前の傾聴的態度が、悲嘆反応にどのように影響しているかを明らかにすることである。ここでいう傾聴的態度、悲嘆反応についての概念規定は以下のようにした。

傾聴：相手の話や表現をあるがままに受け止め（受容）、尊重した態度を持って相手の心を自分の心のように感じ（共感）、受け止めたということを相手に伝える（気持ちを含めて相手に返す）ことのできる聞き方をいう。
悲嘆反応：大切な人の死に伴って起こってくる、身体的反応・行動的反応・精神的反応の一連の反応のことをいう。

研究方法

1. 研究対象

平成14年5月24日以降平成15年11月までに在宅死した17名の内、11名の利用者の、直接介護に当たった家族にインタビューした。うち2名については、死後約1、3、6ヶ月にインタビューで追跡した。

2. インタビュー手順

インタビューガイド（表1）に基づいて直接インタビュー調査した。

3. データ分析

文字化されたインタビューのテキストから、悲嘆反応を表出していると思われる内容を抽出し、これらをそれぞれコード化した。傾聴的態度についても同様の方法をとった。

コードはあらかじめ、先行研究などから概念化したものおよび、今回の研究の際に改めて構築したものをを用いた。コード内容はそれぞれ類似コードを継続的に比較しながら、悲嘆反応、傾聴的態度の両者の構成概念を構築した。最後に悲嘆反応と傾聴的態度それぞれの関連について、個別に分析を行った。

結果

1. 対象者の悲嘆反応

表1 悲嘆反応に関する諸因子

傾聴的態度が多く抽出されている事例は訪問看護の期間が長い傾向にある。短い場合でも強い悲嘆反応はなく「再建」に至っている。突然死の場合も全て「再建」していた。

2. 看護師の傾聴的態度

表2 傾聴的態度の言葉のコード化

訪問看護師の傾聴的態度について好意的に受け止めていた。傾聴的態度で関わられたということは、介護や病状進行に対する不安に対して家族と一体化作業が行われていたと推測できる。再建していない事例も生前のケアについては、看護師は常にその介護を認め励ましてきた。介護者本人は納得できない状況だった。しかし病的悲嘆反応の状況とはいえない。このようなケースの場合は死後のアプローチ（グリーンケア）が効果的とも考える。しかし今回のインタビューでは看護師にグリーンケアを望む事例は1例もなかった。相手の心をつかめなかった事例の場合は癌で身体的苦痛が強く、短期間の訪問だった。家族の要望を十分に汲み取りながらの予期悲嘆についてのサポートが不十分だった。その事例について悲嘆反応と傾聴姿勢について考えた。

図1 A氏の傾聴姿勢、悲嘆反応に影響した要因と結果（2回目のインタビュー）

看護師の傾聴的態度が表れる言葉は出ていない
介護者は病院での状態や心配事を話したかった
と言っており、介護中の困っていることや不安を
聞こうとした看護師との間にずれがある。

話したいこと、聴いて欲しいことがあったが、その
時点では話そうと思わなかった。潜在した話したい
気持ちを表すことが出来ず、不安な気持ちで
最後を迎えた。

死後悲嘆反応としては「再建」できており、生前
の傾聴的態度についても良好に受け止めていたK
氏の悲嘆反応と傾聴的態度について考えた。

図2 K氏の傾聴姿勢、悲嘆反応に影響した要因と結果

傾聴的態度により介護者の相談事は解決で
き、介護への意欲になった。

と夫の支えが影響し、介護が安心して継続で
きた。結果的に家で看取ることが出来たという満
足感がある。傾聴的態度は介護の満足感に強く影
響していた。

悲嘆反応は死別後に受けたヘルパー研修の学び
が強く影響している。看護師の傾聴的態度は影響
していない。

考察

訪問看護師の生前の傾聴的態度も死後の悲嘆反応
に影響するという仮説を基に分析した。傾聴的態度
は直接的には悲嘆反応に関係していたとは言えな
かったが、看護師によく相談したり、介護の不安
や悩みをよく訴える家族は死別後の再建作業が早か
ったケースも多かった。介護期間が長く高齢の利用
者が対象だったこと、訪問期間が長期であったこと
とも関係していたものと思われる。

看護師の傾聴的態度が悲嘆反応に影響があるかど
うかは、「否認」の時期に焦点を合わせる必要があっ
た。今回のように、死別後数ヶ月を経過した段階で
回想することは、必ずしも看護師の傾聴的態度をあ
りのままにみられないという欠点がある。従って死
別後数ヶ月経過した後に傾聴的態度と悲嘆反応の関
係をみることには困難であった可能性がある。

また、「否認」から「再建」に至るまでのプロセス

の中では、様々な因子が複雑に絡み合っていくもの
と思われ、今回も単純に傾聴的態度と悲嘆反応の間
に直接的関係があると考えるのは困難とわかった。

しかし、高齢者を長期に介護している家族の場合、
傾聴的態度が信頼関係を形成させており、介護者に
安心感を与え、不安を取り除くことに成功していた。
このことで、死別後に介護に対する満足度が高くな
り、否認から再建作業までの期間が短かった事例も
複数見られた。一方、癌や若年者の短期間の訪問で
は処置や苦痛緩和を求められ、このようなケアは家
族の不安や苦痛を取り除くようには受けとめられず、
信頼関係が成立していたとは言え切れない。この場
合の2例は再建作業が遅れていた。短期間の訪問で
は、特に家族が不安を表出しやすい雰囲気や態度を
看護師は意識して持たなければならぬと考える。

死別後の悲嘆反応に対するケア（グリーンケア）
については、今回のインタビューでは看護師に求め
る利用者はなかった。これはこのようなケアが訪問
看護師の役割という認識を家族はしておらず、他の
関係者のかかわりを求めているのかもしれないと考
えられた。

引用、参考文献

- 1) 上野里美他：終末期にある患者の在宅死を可能にする要因の検討，第33回地域看護，1997.
- 2) 安田友子他：在宅死を可能にする家族支援の検討，第28回地域看護，1997.
- 3) Worden, J.W. : 'グリーフケアリング'、川島書店、1993.
- 4) Deeken, A : 悲嘆教育，ターミナル1(6)、三輪書店1991.
- 5) 河野友信他編：よく聴きよくみる癒しの法則、三輪書店、2000
- 6) 福本弘子 他：看護に活かす積極的傾聴法，メディカ出版、2001.
- 7) 長田久雄 監訳：ナースのためのカウンセリングスキル医学書院、1996.

表-1 悲嘆反応に関する因子

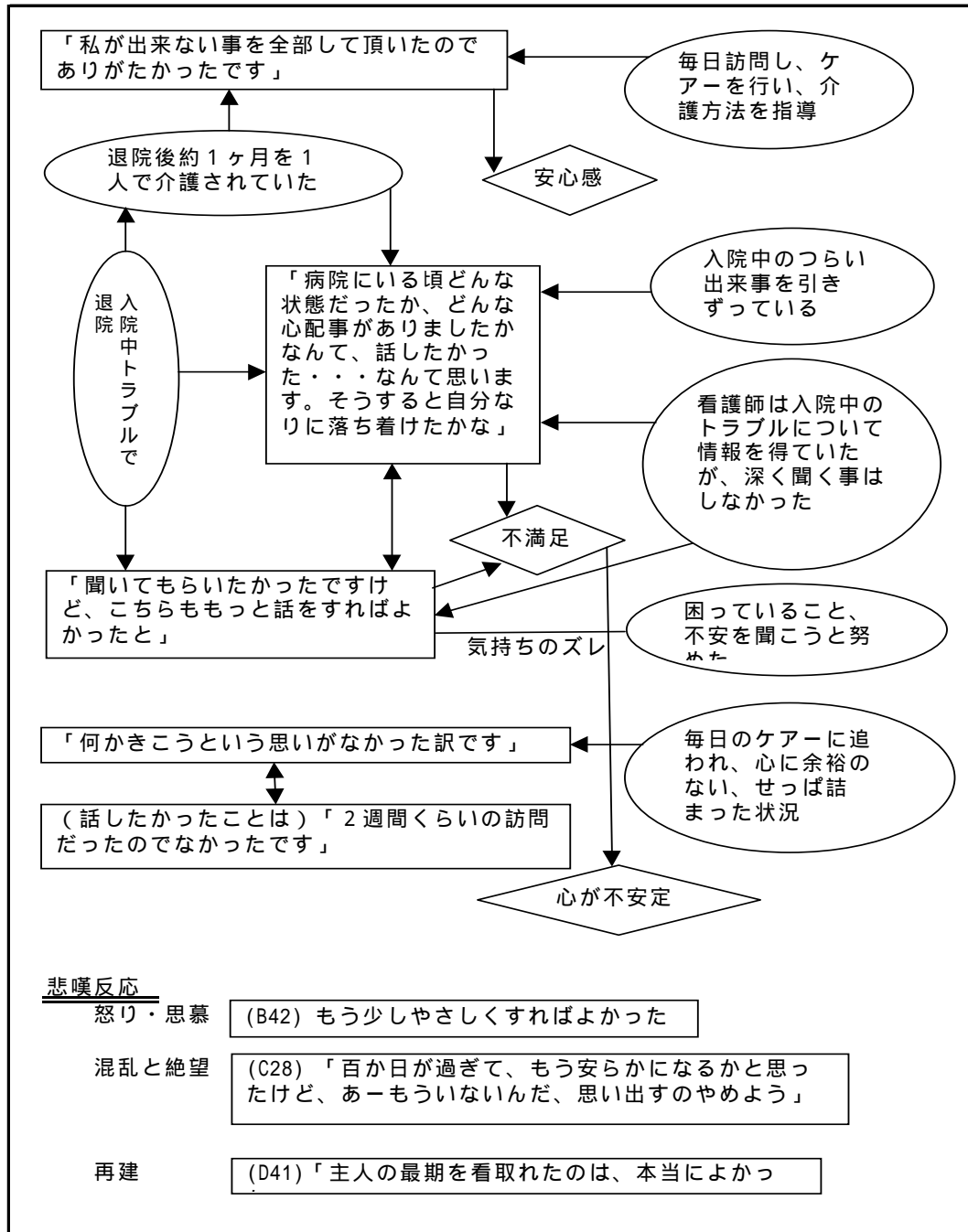
	インタビューの時期	介護者の年齢	故人の年齢	家族構成	故人との関係	訪問看護の期間	死亡経過	インタビュー時の悲嘆反応	看護師の傾聴的態度
A	1,3M	59歳	63歳	母・妻	妻	2週間	予期した死	再建	
B	1,3,6M	78歳	98歳	娘・息子	息子	1年	予期した死	再建	
C	1,3,6M	94歳	92歳	夫・甥夫婦	夫	2ヶ月半	予期した死	再建	なし
D	5M	61歳	79歳	長男夫妻	長男	1ヶ月	突然死	怒り思慕～再建	なし
E	5M	70歳	78歳	妻	妻	7ヶ月	突然死	怒り思慕～再建	
F	7M	65歳	94歳	娘・息子・孫	長女	3年	予期した死	怒り思慕～再建	
G	7M	80歳	98歳	夫	夫	2年	予期した死	否認～再建	
H	10M	63歳	92歳	長女夫婦	長女	2年8ヶ月	予期した死	怒り思慕～再建	
I	13M	69歳	100歳	長女夫婦次女	長女	2年7ヶ月	予期した死	怒り思慕	
J	15M	53歳	53歳	夫・姉・子供3人・双子の妹	双子の妹	1ヶ月	予期した死	否認～怒り思慕	
K	17M	55歳	90歳	長男夫婦	長男の嫁	10ヶ月	突然死	怒り思慕～再建	

表2 インタビュー時に表現された傾聴的態度のコード化

コード化した内容		傾聴的態度として表現された言葉
番号	内容	
	聞こうとする態度	<p>こっちもわからないことは何でも聞き、話を聞いてくれたし、いろんなノウハウを教えてもらって自信がついてきたんです。</p> <p>話安かった。本音をそのまま受け止めてくれた。一人の人間としての教養が見についているから楽だった。いいたいことがいえなくてことはなかった。</p> <p>いいたいことをみな受け止めてくれた。</p> <p>話を聞いてくれ、何でもおさまりました。</p> <p>何でも聞きちゃう。</p> <p>相談に乗ってくれました。</p> <p>最後は私のしゃべる相手になってもらいました。</p> <p>母のことをよく聞いてくれたし、それに沿ってやっていただきました。</p> <p>何かありますかとよく聞いてくれたし、私も何かあればよく聞いていました。</p> <p>主治医に介護者の言いにくいことを言ってくれた。</p> <p>よく相談に乗ってくれたよ。親切だったよ。</p> <p>本当に困っちゃったとか、いえなかったということはないです。</p> <p>よく聞いていただいて助かりました。ただ感謝していました。</p> <p>処置をしながら話をしていましたから、よく話を聞いてくださいました。</p> <p>とにかくよく話を聞いて下さって本当に助かりました。</p>
	信頼される	<p>すぐ心の通うお付き合いができた。</p>
	相手を認める態度	<p>ご苦労様ですね、と労をねぎらってくれました。</p> <p>話を聞いてもらえるとまた頑張れるかなと思えました。</p> <p>幼児用語を使われるのがすごく嫌だったが、そういうところはとても丁寧に扱ってくださいました。</p> <p>大変だけどよくやっていらっしゃるといわれたり、褒められたり、励まして頂いた。</p> <p>さぎそうさんみたいに敬愛する看護師さんたちは、「なんていったって24時間365日みているご家族にはかなわないわ」といっているけどね</p> <p>「もし気がつかないことがあったら、何でも言って頂戴。」こういう方は少ないです。</p>
	共感する	<p>ああそう、良かったわねっていうんで、コミュニケーションがとれていました。</p>
	安心感を与える	<p>よく聞いてくれた、ニコニコして大丈夫よといってくれた。</p> <p>心配ないわよといわれて安心しました。</p> <p>きてくださる事自体が勇気付けられた。</p> <p>安心しました。</p> <p>十分ですとおっしゃってくださって安心します。</p>
	止め手てを返す	<p>話をちゃんと聞いて、受け止めてくれた。わからないことは次回まで調べて、話してくれた。</p> <p>非常に話安かった。本音をそのまま受け止めてくれた。一人の人間としての教養が身についているから楽だった。いいたいことがいえなくてことはなかった。</p> <p>いいたいことをみな受け止めてくれた。</p>
	励まし	<p>大変だけどよくやっていらっしゃるといわれたり、褒められたり、励まして頂いた。</p> <p>幼児用語を使われるのがすごく嫌だったが、そういうところはとても丁寧に扱ってくださいました。</p> <p>十分ですとおっしゃってくださって安心します。</p>
	包容力	<p>話を聞いてくれたし、いろんなノウハウを教えてもらって自信がついてきたんです。</p> <p>「もし気がつかないことがあったら、何でも行って頂戴。こういう方は少ないです。」</p>
	ねぎらいの言葉	<p>ご苦労様ですね、と労をねぎらってくれました。</p> <p>ねぎらいの言葉かな。</p>
	緊張させない	<p>気兼ねはぜんぜんしませんでした。</p> <p>相談員でもないし、ケースワーカーさんでもないし、話し合うとかそういうことをこちらも求めていたわけではないが・・・</p>

注) ()内数字は悲嘆反応として表出された内容のコード番号

図1 A氏の傾聴姿勢、悲嘆反応に影響した要因とその結果(2回目のインタビューより)



注) 数字は傾聴姿勢として表現されたコード記号

図2) K氏の傾聴姿勢、悲嘆反応に影響した要因とその結果

